

第3号
昭和58年9月10日(土)

瑞山会会報

編集発行 / 名古屋市立大学経済学部同窓会・瑞山会編集部
名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑1(名古屋市立大学経済学部内)



学部創立20周年を迎える

瑞山会総会 11月23日・都ホテルで開催

記念講演に

城山三郎氏来名

本年度は我々の経済学部が創立され二十年を迎えます。また瑞山会も設立後満五年を経過しましたこれを記念して来る十一月二十三日に瑞山会総会を盛大に実施したいと思っております。

総会では、通常の事業報告、経過報告等のもと、作家の城山三郎氏に現代社会を生きていくに際しての「志」の大切さなどについて記念講演を行っていただく予定です。

また、講演終了後は懇親会を立食パーティー方式で開き旧交を温めていただくつもりですので多数の皆さんの参加をお願いします。(城山氏略歴は四ページに記載)

昭和五十八年度瑞山会総会

日時 昭和五十八年十一月二十

三日(勤労感謝の日)午後

三時

場所 名古屋都ホテル

第一部 総会及び記念講演

(講師 城山三郎)

第二部 懇親会

通常総会兼代議員会

議事報告

昭和五十五年度
通常総会

日時 五十五年五月十八日(日)
場所 山の畑校舎経済学部
記念講演「暮しの中のことば」
講師 関山和夫先生

懇親会 学生会館2F

昭和五十六年度
通常総会

日時 五十六年九月五日
場所 郵便貯金会館

経過報告 一、会員名簿のコンビ
ユーター登録

二、名簿追録の発行

三、特別・正会員に対する慶弔

四、開学三十周年記念事業への協
力

五、卒業祝賀会助成

六、卒業アルバム発行助成

昭和五十七年度
通常総会

日時 五十七年八月五日
場所 厚生年金会館

経過報告 一、名簿追録の発行

二、特別・正会員に対する慶弔

三、卒業祝賀会助成

四、卒業アルバム発行助成

五、野外教育施設の卒業生利用、
事業計画 一、瑞山会名簿改訂版
の発行

二、会報の発行

三、会員に対する慶弔

四、卒業祝賀会助成

五、地域別支部の結成(地域別名
簿の作成)

六、会員親睦会助成の実施
(ゴルフコンペ等)

*会員親睦会助成支出基準

(イ)会員であれば、だれで
も参加できる事

(ロ)会報等と呼びかけ、か
つ事後に会報等に結果
報告が、できる事

(ハ)総会で報告する事

(ニ)理事会の承認をえて、
瑞山会後援の形がとれ
る事

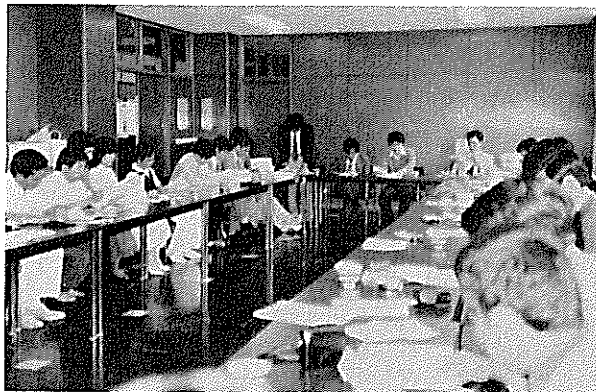
七、会議出席に伴う旅費支
給について

お知らせ

瑞山会では、各会員の皆さんが
有志で親睦会をされた場合、若干
の経費助成を行うことを決めてい
ます。

ゴルフコンペ、釣り大会、麻雀
大会等何でも結構です。何かの親
睦会を企画された方は同窓会事務
局まで連絡して下さい。

ただし、特定のゼミや特定の年
次特定の職場のみを対象にした企
画は対象外とさせていただきます。



理事会風景



支部設立に 全面的援助

支部の設立については、瑞山会
創立のときから希望されていたが
資金及び運営の両面のため、いま
では、一つも設立されていなかっ
た。

しかし、今年度の第五回総会で
その両面を解消するため、本部が
全面的に援助を行なうことが決定
された。

資金面については、今年度、初
めて、そのための予算が計上され
た。但し、初年度でもあり、いま



での支部設立の実績も無かったこ
とでもあるので、明確な支部設立
援助費としては計上されてはいな
いが、当面、事務運営費ないしは、
その他費の中で、弾力的に運用す
ることが決定された。

運営面で、最大の障害となつて
いた支部会員の把握については、
会員管理事務の電算化により、容
易にリスト・アップすることがで
きるようになったので、地域支部
の結成等、会員各位から要望があ
れば必要なりストをアウト・プツ
トして資料送付ができるようにな
りました。

会計報告

収 支 計 算 書

収入の部

勘定科目	決算期	第 2 期(昭和54年度)	第 3 期(昭和55年度)	第 4 期(昭和56年度)
前期繰越金		0	586,165	0
会費収入		5,068,000	3,578,000	2,756,000
(新入学生)		(2,110,000)	(1,990,000)	(2,020,000)
(会費)		(2,958,000)	(1,588,000)	(736,000)
会費外収入		293,559	509,984	623,358
計		5,361,559	4,674,149	3,379,358

支出の部

勘定科目	決算期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
名簿発行費引当金		500,000	500,000	500,000
名簿追録発行費		127,500	180,000	187,000
会報発行費		170,794	7,096	0
総会費		0	269,855	73,816
新卒業生祝賀会費		250,000	190,000	263,811
通信費		285,010	473,940	283,675
事務運営費		282,600	547,136	225,606
その他		201,490	884,465	150,021
(小計)		(1,817,394)	(3,052,492)	(1,683,929)
基金積立金		2,958,000	1,621,657	1,695,429
次期繰越金		586,165	0	0
計		5,361,559	4,674,149	3,379,358

基金積立金明細

勘定科目	決算期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
現金		42,000	29,844	29,844
普通預金		331,986	814,126	703,345
郵便振替口座		764,000	10,000	746,000
定額預金		1,500,000	1,000,000	1,000,000
定期預金		2,029,334	4,090,514	2,802,780
割引信用債券		2,078,245	2,209,940	2,345,759
金銭信託		165,184	377,982	600,107
貸付信託		3,000,000	3,000,000	5,000,000
計		9,910,749	11,532,406	13,227,835

役員紹介

会則第三章・第八條(任期)及び細則第二章(役員規定)によりまして、昭和五十七年度通常総会で選出されました役員を紹介いたします。

理事 (ゼミ名)		監事	
会長 栗野 泰次	一期 大山	前田 勝昭	一期 岡崎
副会長 坂野 修	二期 山本	阪野 修二	一期 金子
〃 山田 雅也	三期 松永	手塚 祥郎	一期 牛嶋
〃 八木 得三	五期 山本	鈴木 迪雄	寺町 信雄
〃 庶務部長近藤 常夫	一期 平田	鈴木 桂二	渡辺 真一
副 〃 杉浦 晴義	五期 松永	逸見 和弘	上野 恒男
編集部長都島忠比古	三期 山本	林 伸二	西 西 縁
副 〃 佐藤 克己	八期 岡崎	山本 信彦	山本 隆司
會計部長松原 隆二	四期 中居	浅岡 邦康	岡井 隆
副 〃 伊藤 正博	六期 牛嶋	品川 正典	酒井 晴次
〃 榊原 茂	一期 松永	和田 了司	佐藤 雅郎
山田 義信	一期 松永	堀 正憲	佐藤 憲治
安田 章	三期 木村	柴山 昭三	山田 憲治
木村 新作	五期 岩橋	水野 文夫	近藤 淑徳
浜田 茂	五期 柴田	鈴木 正彦	芝原 木村
中村 正治	五期 木村	舟津 英夫	森 健次
鈴木 正彦	七期 芝原	鈴木 高康	長江 涉
田中 喜夫	七期 岡崎	柴田 善和	山田 昇司
荒深美和子	九期 木村	伊藤 秀夫	
岡田美津雄	十期 中居		
沢田 武昭	十一期 松井		

七期生	大蔵 和廣	青木 輝雄
八期生	大塚 邦夫	横山 明己
八期生	箭内 勝彦	小杉 孝志
八期生	河合不二雄	
九期生	松尾 民雄	加納 孝行
九期生	家田 陽子	渡辺 吉弘
十期生	亀井 邦弘	早川 裕朗
十期生	伊藤 正義	
十一期生	岩田 栄一	伊藤 俊幸
十一期生	鈴木 秀典	寺沢 賢治
十一期生	大橋 宏史	加納 敏夫
十一期生	竹村美代子	永瀬 元喜
十一期生	吉村 金利	中森 啓二
十一期生	小島美恵子	三浦 勝
十一期生	前田 浩詞	
十一期生	水野 和明	吉田 隆司
十一期生	伊藤 聡	西尾 鋼二
十一期生	門谷 章伸	盛林 義久
十一期生	渡辺 淳子	幸子
十一期生	山崎 義之	
十一期生	渡辺 弘子	

名市大公開講座を開催

昭和五十八年十月一日、十一月十八日

名市大では、開かれた大学の一環として三年ほど前から市民公開講座を開催しています。本年も十月一日から十一月十八日の間に、

城山三郎氏略歴
小説家。一九二七(昭和二年)名古屋市の商家に生まれる。本名杉浦英一。一九四五年名古屋商業学校を卒業し、五月に海軍特別幹部練習生に志望入隊。これがのちに「一歩の距離——小説予科練」(一九六八年)などの戦争体験ものを書くことになる。一九五二年一橋大学卒業後、愛知学芸大学の景気論の講座を担当。一九五五年「中京財界史」を「中部経済新聞」に連載。一九五九年「総会屋城」(一九五八年)で第四十回直木賞受賞。他に、小説「日本銀行、百戦百勝、落日燃ゆ、冬の派閥など

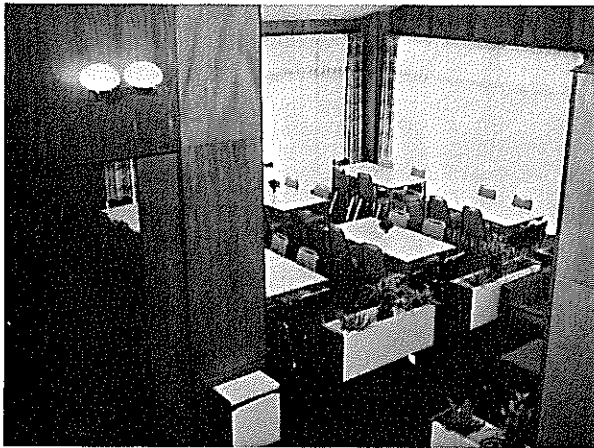
お願い

瑞山会の活動をより一層充実させていくため、よいアイデアのある人、あるいは役員をやつてほしいと思う人(自薦、他薦問わず)そしてこの瑞山会報に何か書いてやろうと思う人は、「我が職場」「後輩に一言」「この頃思う事」「ゼミ同窓会」「クラブ同窓会」「先生の思い出」「会員の追悼」など何でも結構です。葉書でも、レポート用紙でも何でもかまいません。どんどんお送り下さい。また、住所、職場等変更した時必ずお知らせ下さい。送り先 〒四六七 名古屋瑞穂区瑞穂町の畑 名市大瑞山会

蓼名荘を訪ねて

秋晴れの連休の一日、名古屋市立大学創設三十周年を記念して、名古屋市と共同して建てられた名古屋市立大学野外教育施設蓼名荘へ車で出かけた。

起伏の激しい中央高速道路を、諏訪インターチェンジで降り、茅野の市街を通り過ぎ、さらに北に進むにつれて、家もまばらとなり木立の中に、ぼつんぼつんと別荘が、見え隠れするようになった。「三井の森」の別荘地である。



その一面に、蓼名荘があった。大海に囲まれた孤島のようにひっそりと、ぼつんと、木立に包まれて、その二階建の姿を見せていた。階段を昇り玄関に入ると、正面に受付があり、そこで宿泊の手続をとる。世話をしてくれるのは、柳平高好・文さん御夫妻である。手続を終えたあと、奥さんに案内してもらった部屋は、畳の香りもまだ残っている十畳間であった。窓は、硝子と障子の二重になっていて、冬の寒さを思わせるものであった。

受付の右手に一段高くなって、談話室と食堂がある。二面が硝子で、しかも、天井は吹抜になっているので、明るく、広がりを感じさせていた。ここで他の宿泊者と一緒に食事をする。クラブの関係であろうか、十人程の学生と、小さな子供を連れた三組の家族連れであった。皆、今日一日の出来事であろうか、ある

利用料金

●利用料(一泊) 一,〇〇〇円

●食事代 朝食 四〇〇円

夕食 八〇〇円・一,〇〇〇円

●その他 シーツ代(一回)三〇〇円

●暖房代(十一月~三月)三〇〇円

○円

申し込み先

●名古屋市立大学 学生部

電話八五一―五五一一(代)

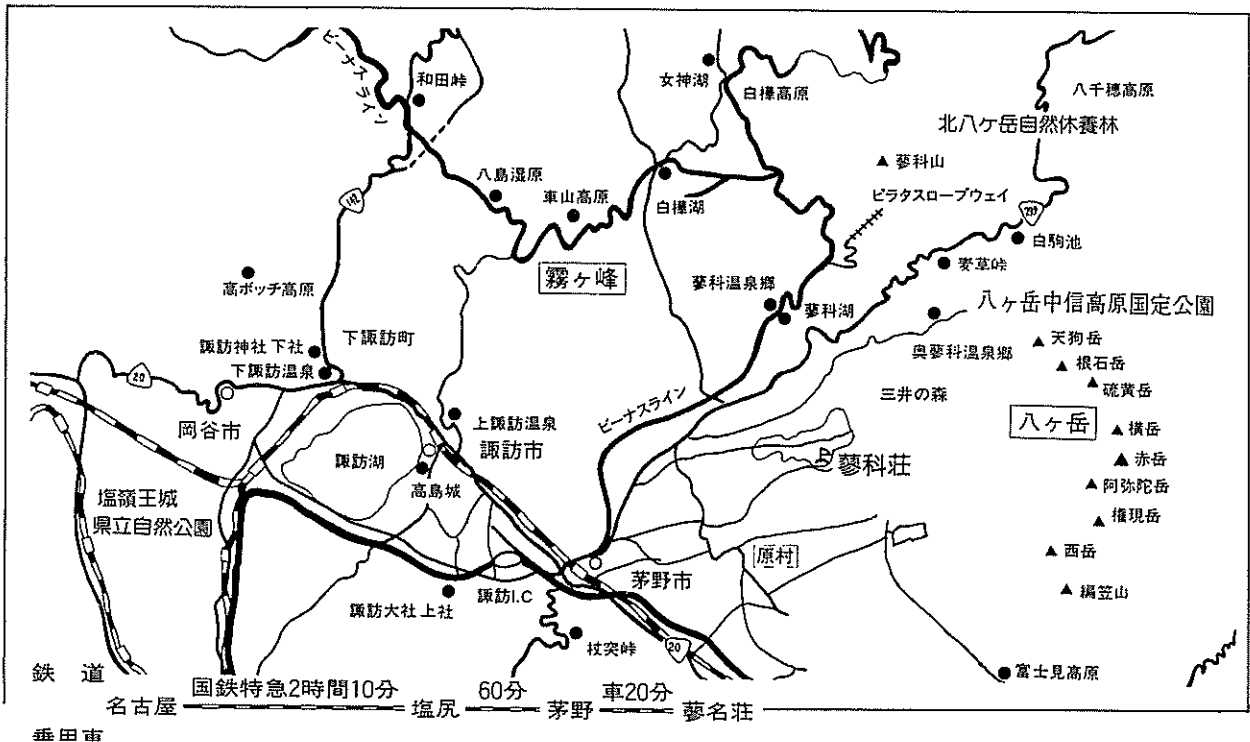
八四一―七四二八(直通)

いは、明日の予定であろうか、互いに話し合いながら、楽しげに夕食をとっていた。

ここには、又、洗濯機と乾燥機が置かれ、しかも簡単な自炊のための設備が整えられているなど、クラブ等で合宿したり、幼い子供を連れて旅行したりする人に対して深い配慮がなされているのに感心した。

翌朝、自分の使った夜具を自分であげ、部屋の掃除をして、御夫妻のポーチでのお見送りを受けて出発した。

久しぶりに都会の騒音を離れた静かで落ち着いた一夜を過ごさせてもらった。御夫妻の行き届いたお世話に感謝して。



「リニエーター」名簿の第二号発刊

瑞山会名簿二号は当初の予定から大巾に遅れてしまいました。が、ようやく発行にこぎつける事ができました。これも皆さんの協力のおかげと感謝しています。特に広告掲載に御協力いただいた同窓にはあつく御礼申し上げます。

名簿は広告等を除き二百二十一頁、カラー頁を含む上質の用紙を使用していますので長い保存にも耐えると思っております。

諸先生はじめ同窓生、在学生の全員を掲載し、五十音別の索引ももつけられましたのでより利用しやすくなりました。

ただ、まだ住所不明の方が若干残っています。同窓の皆さんでお気づきの方は官製葉書に、氏名、卒業年次、ゼミ、現住所(TEL)勤務先を明記し同窓会まで(千四六七 名古屋市瑞穂区瑞穂町字山の畑 名市大 瑞山会)ご連絡いただければ幸いです。

また、この名簿は会費を納入していただいた方のみにお送りしています。万一納入済の方で名簿がとどいていない時は至急お知らせ下さい。会費未納の方はこの機会

にぜひ納入していただきたいと思
います。

会費 終身会費 一万円
または年会費 二千元

振込口座 名古屋一八六五五

口座名 名古屋市立大学経済学

部同窓会

振込手続機関 郵便局 手数料

振込者負担

住所不明者

以下の方は現住所がわかりませんので、心あたりの方は学部内・瑞山会宛ご連絡を下さい。

一期生 小谷 勝彦 岡崎

(昭43年卒) 鈴木 博 松井

田中 征雄 松永

中村 鎮 木村

西川 吉雄 牛場

向尾 安彦 金子

山田 裕昭 一谷

二期生 岩名 宏明 平田

(昭44年卒) 門脇 浩 木村

下村 惟司 木村

(安藤)

堀内 勲 松永

松山 考之 小林

三期生

(昭45年卒)

伊藤 瑛 福田

横田 浩 岡崎

水谷 明 木村

植田 直樹 木村

中島 敏之 木村

松永 良明 岩橋

山北 良彦 松井

有竹 徳重 芝原

今井 邦夫 加藤

大屋 英雄 山本

佐々間道雄 加藤

柴田ひろ子 藤田

(豊原)

竹内 哲夫 柴田

永田 信 木村

長谷川 清 岡崎

松浦 豊 岩橋

松本 卓士 加藤

森川 耕治 藤田

山田 賢二 加藤

奥田 秀雄 藤田

神田 廣造 藤田

国重 俊郎 真藤

白木 雅男 真藤

戸田幸一郎 木村

橋本喜代一 芝原

布川 雅美 岡崎

三浦 祥男 芝原

森 昇 妙見

六期生

(昭48年卒)

山口 透 岡崎

鶴田 博司 西田

水野 順二 柴田

村松 学 妙見

小川 順三 柴田

川津 静夫 中居

七期生

(昭49年卒)

桜美 耕一 松井

鈴木 秀一 真藤

中島 宏 真藤

野田 裕嗣 根津

緒方 準治 芝原

八期生

(昭50年卒)

片平 正博 西田

塩沢 潔 松井

高津 俊文 牛嶋

中山 達夫 柴田

原田 光俊 柴田

九期生

(昭51年卒)

宮田 宣彦 岡崎

伊藤 英則 芝原

入倉銀四郎

上栗 純広

柴山美代子 中居

木村 俊明 妙見

米田 禎子 藤田

十期生

(昭52年卒)

有安 信雄 真藤

加藤 徹哉 村田

原 英男 芝原

江川 周治 上村

十一期生

中山 雄二 芝原

一木 宏子 内藤

貴田 清博 柴田

佐藤 俊夫 松井

廣田 光栄 芝原

十四期生

蟹江 顯治 大路

高塚 勝 西田

おわび

昭和五十四年第二号会報以来、五十五年、五十六年と二年続け、会報が発行できなかったことについて、おわび申し上げます。ここに、第三号、をお送りします。

今後、少なくとも年一回の会報発行に努力いたしますので、よろしくお願いたします。

